

スポットタイプはカンタン投薬!

アドポケット®は、お薬を背中にとらすだけのスポットタイプです!

① 錠剤の投薬が苦手な飼い主様でも簡単に投薬できる

② こんなネコちゃんでも大丈夫!

- 錠剤はすぐに吐き出してしまう
- 注射が大の苦手
- お腹が弱く、飲み薬で下痢気味になりやすい

中栓のはずし方



キャップを抜き取ってひっくり返し、キャップの先端にある凹部を中栓(安全シール)に合わせて差し込みます。

※お子様がいなくても中身が出ないように中栓がついています。

キャップをひねって中栓をねじ切ります。

お薬のつけ方



猫の頸背部(頸部後方で後頭部に近い部分)の毛を片手で分け、皮膚がよく見えるまでしっかりと押さえます。

もう片方の手でピペットの先端を背中皮膚につけます。そのままピペットをゆっくりと押し、少しずつ全量を滴下します。

ご注意 ピペットを皮膚にあまり強く押しつけて投与すると、一度投与した薬剤を吸い戻したり、猫の皮膚を傷つけて赤くなることがあります。薬剤が確実に全量投与されていることを確認しながら滴下してください。

Q. 子猫にも安心して使えますか? また、体重制限はありますか?

A. 子猫は生後9週齢以上かつ体重1kg以上からご使用いただけます。

こんなネコちゃんにおすすめ!



気ままに外によく出かけるネコちゃんはもちろん、ずっと家の中にいるネコちゃんも都市部やその近郊に住んでいる家の中や近くでノミを見ることがある



● **効能・効果** 犬糸状虫症の予防、ノミ、ミミヒゼンダニ、猫回虫及び猫鉤虫の駆除

● **用量** 愛猫の体重に合わせてご使用ください。

体重	用量
1kg以上4kg未満	0.4mLピペット1個全量
4kg以上8kg未満	0.8mLピペット1個全量
8kg以上	適切なピペットの組み合わせ

劇 指定 要指示医薬品 動物用医薬品

アドポケット®は動物病院で処方される要指示医薬品です。詳しい用法・用量は、動物病院の先生の指示に従ってください。

バイエル薬品株式会社 動物用薬品事業部
〒100-8265 東京都千代田区丸の内1-6-5
www.bayer-ah.jp

1512-50000-CP-AC-003-IS

猫用

アドポケット®

品名:アドポケット®猫用

ノミ・おなかの虫(回虫・鉤虫)・ミミヒゼンダニを駆除!
さらにフィラリア症予防まで、
1本で効く!

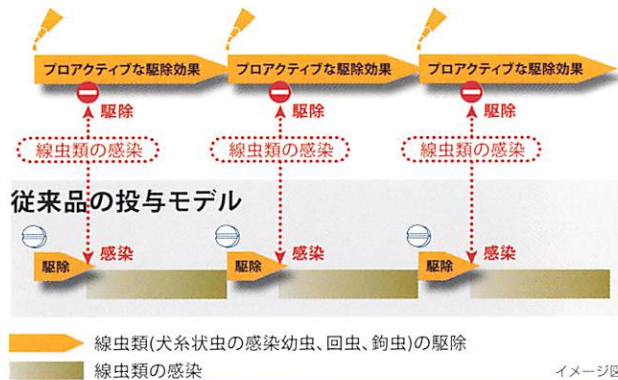
あなたの愛猫を
守りつづけます。



定期的な投薬により、効果が持続。 アドボケート®の駆虫は 〈プロアクティブ〉

一回の投薬で、線虫類(フィラリア感染幼虫・回虫・鉤虫)に駆除効果を発揮。定期的な投薬により、駆除効果が途切れることなく持続し(プロアクティブ)、常に愛猫を守り続けます。

毎月のアドボケート®投与モデル



回虫、鉤虫を駆除します!

おなかの虫は目に見えないうえ症状も出にくいいため、見過ごされがちです。「元気がなくなる」「おなかがふくれる」「消化不良や下痢を起こす」などの症状が見られたら感染している可能性大。動物病院で診察を受けましょう。



猫回虫

猫回虫: 10cm以下
虫の卵を口から飲み込んだり、母猫の乳汁からも感染。



猫鉤虫

猫鉤虫: 1.5cm以下
主に口から飲み込むことで感染。

体内にいるフィラリア幼虫※を 100%駆除します!

※第3期・第4期幼虫

- 皮膚につけた部分からモキシデクテンがすばやく体内に吸収され、血中に入り、組織中のフィラリア幼虫(第3期～第4期)に作用します。
- 主にフィラリアなどの線虫類に選択的に作用し、正常な神経伝達を妨げます。



フィラリア症は犬だけの病気ではありません。フィラリア幼虫が猫に感染すると喘息のような咳や呼吸困難を示すことがあり※、また突然死の原因にもなると言われています。犬と異なり猫のフィラリア症は診断が難しいため予防が何より大事です。

※犬糸状虫随伴呼吸器疾患(HARD: Heartworm Associated Respiratory Disease)

ミミヒゼンダニを駆除します!

外耳道に寄生して激しいかゆみを起こすので、猫はしきりに頭を振ったり耳を掻いたりします。また悪臭のある黒い耳垢が特徴的で、猫の外耳炎の主な原因になります。



ミミヒゼンダニが感染した猫の耳



アドボケート®投与後30日目の猫の耳

ノミをスピード駆除して、 吸血されるリスクを低減!

- ノミの関節などからイミダクロプリドが体内に取り込まれると、ノミは神経の過剰興奮を起こして3～5分で吸血をストップし死滅します。
- 昆虫の神経に特異的に作用するので、哺乳動物には安全性の高い成分です。



※成虫以外の卵、幼虫、サナギは吸血活動を行いません。

お薬の広がり方

二つの有効成分が異なる経路で広がります。モキシデクテンは投与後すぐに皮膚から体内に吸収され、全身に広がります。イミダクロプリドは、投与後24時間かけてゆっくり全身の皮膚表面と被毛上に広がり、体内にはほとんど吸収されません。

